

美しきブルターニュ周遊と巨石文化を巡る旅

ご旅行期間とご旅行代金

【旅行代金には燃油サーチャージが含まれております】

2025年 9月22日(月)発～10月3日(金)着…¥946,000

お一人部屋利用追加料金¥120,000



フランス北西部に位置するブルターニュ地方は、英仏海峡と大西洋に突き出た半島で、豊かな自然と独自の文化を有することで知られています。エメラルドの海岸、ピンク花崗岩の海岸、険しい断崖が連なる海岸線と緑の島々が点在する海。また内陸部にはケルトや巨石文化、のどかな田園風景、壮麗な城など、素晴らしい景観が訪れる人々を魅了しています。

パイユーのタバストリー

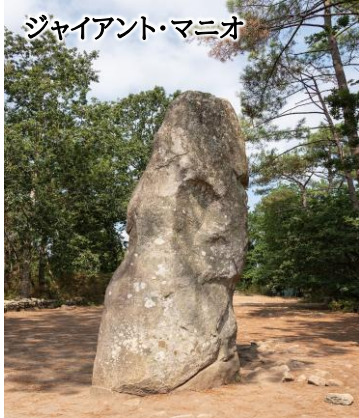


ヴァンヌ旧市街



ユエルゴアの森

サン・シュリアック



ジャイアント・マニオ

ご利用予定ホテル

- パイユー／オテルダルグージュ、チャーチルホテル・パイユーセンター
 - サンマロ／メルキュール、アン・ドゥ・ブルターニュ
 - カンパール／ベストウエスタン、オセアニア・カンパール、メルキュール・カンパール・サントル
 - ヴァンヌ／ベストウエスタン・プラス、キリヤド・プレステージ、キリヤド・ヴァンヌ
 - レンヌ／メルキュール、ノボテル
- ※上記ホテルまたは同等クラスとなります。

ご旅行条件

- 募集人数/10名様
 - 最少催行人数/6名様
 - お食事/朝食8回・昼食7回・夕食8回
 - 旅券残存期間/出国日から3ヶ月以上
 - 成田・千歳空港利用/¥4,590(別途必要)
 - 千歳空港より、全行程、社員添乗員同行
 - ETIAS(欧州渡航情報認証制度)/2025年度から必要となります。金額等の詳細が分かり次第、改めてご案内いたします。
 - 国際観光旅客税[出国税]/¥1,000(別途必要)
 - トランク往復無料託送サービス
- 【ご自宅～空港～ご自宅】
- 東京発着：成田空港に後泊しない場合は¥10,000引き
 - 大阪・中部・福岡発着/同一料金
- ※ビジネス料金はお問合せ下さい。
※右記の時間は、すべて現地時間で表示されております。
※右記の「○」はお食事の有無を示します。「+」は機内食、「×」の食事は含まれておりません。
※現地の都合によりスケジュールが変更される場合がございます。その場合でも極力日程に従って旅行サービスがお受けになれるよう万全の手配努力を致します。

ブルターニュ地方に残された神秘の巨石群

フランスのブルターニュ地方には、メンヒル(立石)やドルメン(支石墓)といった巨石が多数存在し、その数と規模はヨーロッパでも最大級です。特に、カルナックの列石は有名で、約 3,000 本ものメンヒルが規則的に並び壮大な遺跡となっています。

この地域で数多くの巨石が存在する理由は、紀元前 5000 年～2000 年頃の新石器時代、ブルターニュ地方はヨーロッパにおけるメガリス文化(巨石文化)の発祥地のひとつであったことが挙げられます。メガリス(Mégalthie)とは、ギリシャ語で「大きな石」を意味し、この文化を担った人々は大規模な石のモニュメントを建造しました。フランスだけでなく、イギリス(ストーンヘンジなど)やスペイン、ポルトガルなどにも広がりを見せましたが、ブルターニュ地方は特にその密集度が高い地域です。メガリス文化が栄えた理由として考えられるのは、新石器時代の定住文化が発達し、農耕や牧畜が広まったことで社会が安定し、大規模な建造物を作る余裕が生まれたこと、ブルターニュ地方の沿岸部は海上交易の拠点でもあり、異文化との交流が活発でした。その結果、巨石を使った宗教的・社会的な儀式が発展した可能性が高いことが考えられます。

巨石遺跡の正確な用途は完全には解明されていませんが、宗教や信仰に関連した儀式のために作られたのではと考えられています。メンヒルやドルメンの多くは、太陽の動きや星座の位置に合わせて配置されていると言われていいますので、季節の変化を知るためのカレンダー的な役割や、農耕のための指標として利用されていた可能性があります。例えば、カルナック列石は冬至や夏至の太陽の昇る方向と一致するように並べられているようで、古代人が天文学に関する高度な知識を持っていたことが示唆されています。また、ドルメン(支石墓)は、集団墓として使われていたことが判明しています。巨大な石を使用することで、祖先の魂を守り、後世にわたって崇拝する場所としての機能を持っていたと考えられます。巨石を組み合わせた「墳墓」には、幾何学模様や渦巻き模様の彫刻が施されているものもあり、特定の宗教的シンボルとしての意味があった可能性が高いといわれています。

ブルターニュ地方には、巨石を建造するのに適した地理的・地質的な特徴があります。この土地には花崗岩が広く分布しており、硬く風化しにくい岩石が豊富に存在します。これらの岩石は、海岸や河川の近くにも多く、採石・運搬が比較的容易でした。ブルターニュ地方は海に囲まれた半島であり、海を使った運搬が可能でした。河川や海を利用して、巨石を遠くから運んでくることができたため、大規模なメンヒルやドルメンを建設できたと考えられています。一部の遺跡では、数十トンの巨石が何十キロも運ばれていることが分かっています。

紀元前 1 世紀頃になると、ブルターニュ地方にはケルト民族(ガリア人)が住み始めました。ケルト文化の中でも、ドルイド信仰(自然崇拝)が広まり、すでに存在していた巨石を聖なる場所として活用するようになりました。ですが、のちのローマ帝国、キリスト教の時代になると異教の象徴とされ、一部は破壊されたり、石材を再利用されるようになりました。